

- 体術や剣捌きと共通する動きまたは異なる動きを理解することがポイントとなる。
- まずは剣先を合わせて間合いを確認する。

1) 右相半身、正面打ち、一教

- ① 取りは右相半身の自然体、剣は下段、剣先は中心線上。受けは中段の構えから上段に振り被る。
- ② 取りは振り被りつつ右に轉身し、振り降ろした受けの小手を剣で抑える。
- ③ 小手を外すと受けが振り被るので、その左脇を胴払いし、振り降ろす受けの剣を受け流す。
- ④ 左足を前に踏み出し、左袈裟で受けの腕を制した後、剣先を受けの左首から喉に突きつけて残心。

2) 右逆半身、片手取り、二教

- ① は前述と同じ。
- ② 取りは振り被りつつ右に轉身し、剣先を受けの左小手（または喉、心臓）に突きつけて制する。
- ③ 取りは剣先を右に返して受けの右脇を切り下ろし、振り降ろした受けの小手を抑える。
- ④ 取りが抑えを外して剣で受けの胸を突くと、受けは右足を一步引いて再度振り被る。
- ⑤ 受けの右脇から左脇にかけて剣で引き切り、剣を振り降ろした受けの左側方に近づき、剣先を受けの左首から喉に突きつけて残心。

3) 右逆半身、片手取り、三教

- ①～④ は前述と同じ。
- ⑤ 受けの右脇を左袈裟で切り落とし、剣を振り降ろした受けの左側方に近づき、剣先を受けの左首から喉に突きつけて残心。

4) 右逆半身、片手取り、四教

- ①～④ は前述と同じ。
- ⑤ 受けの左脇に追い突きを行い、剣を振り降ろした受けの左側方に近づき、剣先を返して受けの左首から喉に突きつけて残心。

5) 右相半身、片手取り、四方投げ

- ①～③ は前述と同じ。
- ④ 取りが腰を引いて剣の溜めを作ると、受けは右足を一步引いて再度振り被る。
- ⑤ 受けの左胴を逆袈裟に斬りあげ（剣先を受けの首の後に残す）つつ後方に抜けて転換し、剣先を受けの左首元につけて残心。

6) 右逆半身、片手取り、回転投げ

- ①～④ は前述と同じ。
- ⑤ 受けの左胴を逆袈裟に斬りあげ（剣先を右上に流す）つつ後方に抜けて転換する。
- ⑥ さらに転換して剣先を回転して受けの右脇を左袈裟で切り落とし、剣先を受けの左首から喉に突きつけて残心。

7) 右相半身、片手取り、二教

- ① は前述と同じ。
- ② 取りは振り被りつつ受けの剣を受け流し、左に轉身して振り降ろした受けの右小手を抑える。
- ③ 剣の峰で受けの剣を左に巻き上げ、右に轉身せずに、振り被った受けの左小手を抑える。
- ④ 剣先を返して受けの剣を受け流し、左袈裟から剣先を受けの喉に突きつけて残心。

8) 右相半身、片手取り、三教

- ①～② は前述と同じ。
- ③ 小手の抑えを外すと受けが再度振り被るので、右に轉身して、受けの左小手を抑える。
- ④ 左に轉身しつつ受けの剣を受け流し、左袈裟から剣先を受けの喉に突きつけて残心。

9) 左逆半身、横面打ち、五教

- ① 取りは左逆半身の自然体、剣は下段、剣先は中心線上。
- ② 受けは中段の構えから右八相の構えとし、右袈裟に斬り込む。
- ③ 取りは左八相で受けの剣を左に払い、さらに受けの右側面に剣を押し返す。
- ④ 受けの脇が開いたところで、剣を切り返して受けの左脇につける。
- ⑤ 柄を逆手に持ち替えて左脇から右脇に引き切り、剣を切り返して受けの右後方から剣先を受けの首元につけて残心。

以上